

「唇に歌を、心に太陽を」

1. お客様の記事から

当社のお客様で毎月を発行されて338号(28年2ヵ月)になる社内報があり、私も平成12年6月号から寄稿しています。その8月号のFさんの記事で表題の言葉がビビッと心に響きました。「唇に歌をもつ、心に太陽をもつ」とされていましたが、Fさんの文脈から推測すると近所に住む多くの大学生の若さから思い出された言葉のように思います。私も満68才になって「若い」との戦いになっているのですが、「心の若さ」の面でギャップを感じて、ビビッと感じたのだと思うのです。

そこで、最初に思い出したのが、右掲の「歌を忘れたカナリア」という唱歌です。「後ろの山に捨てましょか」という件(くだり)が印象的です。若い人には聞き覚えがないかも知れませんが、結構、意味深い歌です。カナリアがさえずりをしなくなったら、カナリアではなくなってしまうので捨ててしまおうかとなるのです。「小藪に埋(い)けましょか」、「柳の鞭でぶちましょか」と厳しい言葉が続きますが、居場所(象牙の舟に銀のかい)をつくってあげれば、歌を思い出すという言葉で締めくくっています。

「歌を忘れたカナリア」
歌を忘れたカナリアは後ろの山に捨てましょか、いえいえ、それはかわいそう。
歌を忘れたカナリアは背戸の小藪に埋(い)けましょか、いえいえ、それはなりません。
歌を忘れたカナリアは柳の鞭でぶちましょか、いえいえ、それはかわいそう。
歌を忘れたカナリアは象牙の舟に銀のかい、月夜の海に浮かべれば、忘れた歌を思い出す。(詞:西条八十)

2. 「歌」=「一番商品」

このように重要な意味を含んでいます。私は、経営コンサルタントという仕事していますので、「居場所」が重要なので特に敏感になったのかも知れませんが、そこで、「歌」を「自分の一番商品」と置き換えたのです。「自分の一番商品」を忘れてしまったら、どうなるのでしょうかという事です。私は、満68才、多くの方は現役を引退してシルバー生活に入っておられますが、私もそうなら、きっと、「歌を忘れたカナリア」になって、つまらない寂しい毎日を過ごすのではないかと思います。そうならないように、自らを若く保つ努力も必要ですし、若い人とのギャップを埋める努力が重要になるのです。

確かに、「唇に歌を、心に太陽を」という事が大切なのですが、まず、「歌」(自分の一番商品)を歌っているかがキーなのです。自分の一番商品を口に出してアピールできる内は、心も健全であると思うし、「太陽」とあるように周囲の方を明るく温かく包む事が出来るのです。皆さんは、最近、どんな風な事を口にしていますか。自分の一番商品を歌っているでしょうか。安易な方向に流れて、お客様からの注文をこなしているだけに終わっていないでしょうか。私は、受け身では余り楽しくはないと思います。自分から仕掛けて「一番商品」をお薦めして、それを採用されて評価される喜びを忘れていないかと案じます。

西条八十は「居心地」をつくると言ったのですが、「一番商品」をお薦めする姿は「人の役に立っている」を実感するものであり、苦労はありますが「やり甲斐」を感じる物になると言えるのです。この「やり甲斐」こそが、心に響いて、自ずから、笑顔で他人と接する事ができて、お客様との関係性(居心地)ができるのです。すなわち、居心地ができれば、「笑顔」=「心に太陽」になれるのです。「笑顔」は重要なキーワードです。「〇〇さんのお世話をした」とか「〇〇さんのお役に立った」という実感を味わっているでしょうか。これがないと「仕事を楽しむ」という状況から外れて行くのです。「楽しくなければ、仕事ではない」、すなわち、「心に太陽を」という心境から遠のくのです。「人は他人の役に立ってこそ存在感が生まれる」のです。そして、「存在感」があるから「太陽」のように周囲を温かく包みこめるのです。

3. シルバー人生での居場所

私は、満68才になりました。お蔭様で経営コンサルタントを職業としているので「経験」が物を言うので現役で頑張っています。もちろん、私を支えてくれるデザイナーの恵美さんやシステム面の三男の将男の存在があって総合的な効果で支持されているのですが、あくまでも中心は私のコンサルティングがなくての事です。年々、年をとって行きますので経験が古くなるので時流や若い人の考えからギャップが広がるのは必然の流れです。そんな背景で「唇に歌を、心に太陽を」という一節が心に響いたと実感しています。

このように、「唇に歌を、心に太陽を」と心に刻み込んで行きたいと思いますが、私の外部環境も徐々に変わっています。3年半前に妻に先立たれていますので、個人的な面でのコミュニケーションの場が少なくなっています。これを補っているのが、独立起業以来、毎朝モーニングに行っている喫茶店があります。事務所に行く前に20分程居るのですが、同じ時間帯に来る近所の奥様たちとお店のママたちと世間話をしています。最近では、自炊を始めたので料理の事なども教えてもらっており、意外に、濃い20分間を楽しんでいます。

次に、事務所のあるマンションの老人会にも入り、会計という役を頂きお世話になっています。この会には、月～金、毎夕約1時間ウオーキングしようというサークルがあり、これにも時間がある時に参加しています。また、老人会の中に歌好きの方がいらっしゃって毎月カラオケを楽しんでいます。元民謡の師範をされていた方もいらっしゃって歌を教えて頂いており、得意な曲では90点台が出る程になっています。月に1回ですが、有志の方々がジャンカラに集まって歌をご披露しているのですが、聞いてもらえる喜びを感じています。

このように、仕事を通じた人との交流の他に、日常生活の中で、地域の方々との交流が増えています。確かに、道を歩くと挨拶することが格段に増えました。多くはお姉さま方(?)ですが、何しろ誰もが我がままなので、そして、私にも好き嫌いの感情があるのですが、できるだけ自分を殺して「心に太陽を」という感じで笑顔で接するようにしています。お蔭様で、こんなん作ったけど食べないとお裾分けも頂くようになっています。

4. 「唇に歌を、心に太陽を」

ある会合で「唇に歌を、心に太陽を」という話をしたのです。「歌」はもちろん「自分の一番商品」なのですが、ある方が「そう言えば、一番商品を忘れて、社員のマイナス面ばかりを口にしていた」とおっしゃられたのです。私は、その言葉に「そうなのです。社員を自慢する、自社の商品を自慢するから社員も商品も進化して行くのです。」と話し、逆を試してみましようとお勧めしたのです。

また、別の方は、「よっしゃー、これからは鬼になるぞ！」とおっしゃったのです。これには、即座に「鬼では、『心に太陽を』という言葉が消えてしまう、一生懸命に自社商品をPRするという意味で「仕事の鬼」なのでしょうが、それでは『北風』になってしまい社員がついて来ないかも知れないので『心に太陽を』を忘れない『自慢男』になって頂きたい」とお話ししたのです。「鬼」と言う言葉は、良いのですが、間違えると遊離してしまう可能性があるのです。タダでも「会社側という線と社員側という2本の平行線があり、絶対に交わらない」と言われているので良く配慮する必要があります。

「歌」はビジネスでは「一番商品」であり、私個人では地域との交流接点としての「純然たる歌」もあります。どちらも忘れずにカナリアであり続けて行きたいと思っています。三波春夫さんの俵星玄蕃は得意ですが、福田こうへいさんなどの民謡系の演歌も好きです。頑張っています。